NO.5
2023年10月

長野反核医療者の会 会報

目次

「黒い雨」学習会
IPPNW第23回大会報告会
信州・戦争展に出展します！
反核おはなし会、始めました
「反核平和への思い」vol.2

講師の山地恭子さん

黒い雨

原爆が爆発したあと、上昇気流によって巻き上げられた放射性物質を含む塵などが混じった黒い雨が降りました。雨を浴びた人が被ばくしたほか、呼吸する際や、水や食べ物を通じて、放射性物質が体の中に取り込まれたと考えられています。 広島では 「黒い雨訴訟」を経て、国が定める推定降雨域が広がりました。さらに黒い雨にあった方は 健康診断のみが対象となる「第一種健康診断受診者証」しか交付されていませんでしたが、「被爆者健康手帳」の申請ができることになりました。

「黒い雨」学習会を開催しました

9/20(水)に黒い雨学習会を長野県民医連との共催で行いました。講師に広島文教大学准教授で元広島共立病院 医療福祉相談室MSWの山地恭子さんをお招きし、病院会場や個人参加など合わせて40名が参加。この企画は、広島で黒い雨を浴びた方に被爆者健康手帳の交付が認められ、長野県でも病院・診療所で申請があった場合に適切に対応ができるようにという思いで開催しました。企画の様子を当会のメンバーで県内で働く看護師の宇井さんに寄稿していただきました。

～～～

IPPNW 第23回世界大会 IN ケニア 報告会
～世界と協力するとできること～

4月にケニア・モンパサで開催されたIPPNW第23回世界大会。実際に現地で参加した当会のメンバーである松久凌大さん（秋田大学３年生）をゲストにお呼びして8/16に報告会を開催しました。報告会の様子を当会のメンバー、医師の成本さんに寄稿してもらいました。

～～～

「平和のための信州・戦争展」に出展します

11/3(金)4(土)5(日)に「第34回平和のための信州・戦争展in松本」が開催されます。戦争をなくし、平和をもとめる団体・市民があつまりさまざまな講演会や展示などの企画を行う予定です。

今年は長野反核医療者の会も参加して主に以下の展示と企画をおこないます。「核兵器をめぐる今の情勢はどうなっているの？」「核をなくし平和をつくっていくために自分たちにできることは？」など、一緒に学び考え、そして実際に行動できる！そんなブースと企画にする予定ですのでお楽しみに♪ぜひ多くの方に足を運んでいただけたら嬉しいです。

ブース

日本政府に核兵器禁止条約への参加を呼びかける
おてがみアクション！

核兵器禁止条約第2回締約国会議は、11月27日～12月1日に、アメリカのニューヨークで開催されます。それまでに間に合うように、戦争展に参加する私たちの思いを「おてがみ」にしたため、内閣総理大臣や外務省宛てにFAXで送ります。さらに、その「おてがみ」を壁に掲載して、自由に飾りつけます！

企画

平和の種をまく会×長野反核医療者の会
平和の花を咲かせるおはなし会

「平和の種をまく会」は、2006年から長野県内で平和のための文化活動(ニュースレター「平和の種」の発行や講演会、映画上映など)を続けています。

この素敵な大先輩たちと、まだ生まれたばかりの長野反核メンバーで平和の話をしたら楽しそう！人前で話せないメンバーも、座談会であれば少し肩の力を抜いて思いを表現できるかも…！？当日は、原爆の絵本、被爆者への聞き取り活動の紹介そして、核兵器の今についての講演会(録画)上映があります。平和の話の花を咲かせに、是非いらしてください！

反核メンバーおはなし会始めました

「長野反核医療者の会のメンバーで交流したい！」というメンバーの提案で10月からおはなし会を始めました。初回は10/6(金)にZOOMで開催し、7人が参加。サーロー節子さんの著書『光に向かって這っていけ』をみんなで読み合わせしながら核兵器・戦争・平和をとりまくさまざまな話題で交流しました。参加したメンバーから出された話題と感想を以下で紹介します。今後もゆるく楽しく継続していく予定ですので興味を持った方はぜひ参加してみてくださいね。

医療・介護・福祉関係者は、科学的に核兵器による人体への影響について語ることができるという面だけではなく、人生に伴奏していく立場であるという面からも、自分たちが反核活動に向いてる！という気づきがあり、みんな元気になりました。

ALPS処理水放出がされていますが、安全だというパフォーマンスのために小泉進次郎氏が福島の海でサーフィンイベントを視察したり魚を食べたりしたニュースについて。

賞賛の声もあるようですが、メンバー内では批判の声しかありませんでした。パフォーマンスのために数回訪れることと、日常的にそこで生活し生計を立てていることは全く違う意味を持ち、日常の重みを軽視する行動だとおもいました。またパフォーマンスの是非についての議論にみんなが飛びつくことで、地元の不安や原発政策の進め方、安全性など本当に考えなければいけないことが見えなくなってしまうと思います。

サーローさんの著作を読んで、医療関係者が核問題に与えるインパクトの大きさを認識することができました。ICANの母体が医療者集団のIPPNWだったことなど、プロローグの中でも知らないことが多々ありました。

日本では人権が法律で規定されていないという話に。人権もですが、核兵器に関しても日本の国内法では規定がないことは、案外盲点かも。非核三「原則」はありますが、法律はない状況で、法学の世界では非核を法律に持ち込むための活動が行われているそうです。人権の法制化とあわせて、ひとりひとりの人生を守るための過程が、領域を横断して展開していることには、私たちも希望をもらえることだと思います。

『光に向かって這っていけ』は、一通り読んだのですが、皆さんの感想を聞いて「気づかなかった！」ということや「わたしもそう思った！」ということがあってさらに深まりました。反核平和・医療に対するみんなの想いにも繋がってとても貴重な時間でした。

サーロー節子さん「光に向かって這っていけ」

サーロー節子さんは、広島出身でカナダ在住の被爆者・反核運動家です。13歳中学1年生の時に爆心地から1.8kmの場所で被爆し、建物の下敷きになりましたが「諦めるな！光に向かって這って行け」という暗闇の中で聞いた声と差し込んできた光を信じ、逃げ出して生き延びました。大学卒業後、アメリカに留学し、結婚を機に移り住んだカナダでソーシャルワーカーになりました。カナダを拠点に世界各国で被爆体験を語り、核兵器廃絶を訴えています。

2017年には国連で核兵器禁止条約が採択され、同じ年にICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）がノーベル平和賞を受賞した際には被爆者として初めて授賞式でスピーチを行いました。

光に向かって這っていけ
核なき世界を追い求めて
サーロー節子 著　金崎由美 著
（岩波書店　2019年刊）

「反核平和への思い」VOL.2

会員の皆さんの「社会情勢に対して思うこと」や「これまでの経験」などを紹介していきます。会員同士がお互いを知る場になりますように。

生活を守るために
何が必要か考えたい。

お名前（ 丸橋 郁弥 ）
所属・職種など（ 事務 介護士 ）